

平成27年度 第2回  
寒河江市総合教育会議  
会 議 録

平成27年11月11日 開会

平成27年11月11日（水曜日） 平成27年度寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹	
寒河江市教育長	草苺和男	
寒河江市教育委員	菊地道子	鬼海瑞光
	松田彌生子	鈴木淳一

○ 事務局職員の職氏名

総務課長	菅野英行	総務課課長補佐	小泉尚
学校教育課長	山田健二	管理主幹	高林雅彦
生涯学習課長	荒木信行	スポーツ振興室長	辻洋一
学校教育課課長補佐	白田純一		

○ 日程

平成27年度 第2回総合教育会議日程  
平成27年11月11日（水曜日）

午後3時00分 開議  
市役所 議会会議室

1 開会

2 あいさつ

3 協議

- (1) 本市の教育について
- (2) 第2次寒河江市教育振興計画（案）について
- (3) これからの教育施策について
- (4) その他

4 その他

5 閉会

## 1 開 会

### ○高林雅彦管理主幹

本日はご多用のところご出席いただき、大変ありがとうございます。ただいまより平成27年度第2回寒河江市総合教育会議を開会いたします。初めに市長よりごあいさつをお願いします。

## 2 あいさつ

### ○佐藤洋樹市長

みなさんご苦労様でございます。本日は平成27年度からスタートした教育制度改革の中の一つの柱でもある総合教育会議の第2回目の開催であります。議題にもありますが今年は今振興計画が最終年を迎えて、来年からの新しい振興計画を策定していくということで市を挙げて取り組んでいるところですが、そのような中で教育振興計画も並行して検討しているところでもあります。寒河江市ばかりではありませんが上半期は地方創生が大きい話題であります。これからの人口減少社会の中でどうやって地域を活性化していくかを国を挙げて各自治体に取り組んでいかなくてはならないということを計画として総合戦略にまとめており、寒河江市の場合、寒河江未来創成戦略として5年間で様々な対策を講じていく計画であります。そういうものを前提にしながらあらゆる面で寒河江の将来の姿を想定しながら振興計画をつくっているところであり、そういった中でこれからを考えると教育というものが柱になっていくのではないかと、また、環境問題や健康問題等も10年先を見ると住み良い寒河江の創造のためには大変重要になってくると、担当の方にもその旨を申しているところでもあります。そういったところでもありますので教育振興計画について後ほど検討していただいている状況をお聞かせいただくこととなりますが寒河江らしさをどの程度前面に出せるかということにかかってくることとなりますが、そして計画は実行していくことが大事であり、実行していくための手立てを考えていくことがないと絵に描いた餅になってしまいますから、ぜひ実現性のある計画を考えてくださいとお願いしているところでもあります。教育をめぐる課題はたくさんあるわけですが教育長からお聞きをしながら、教育委員の皆様と忌憚のない意見交換をさせて頂いて、教育のあり方について議論を深める機会になればよいと思いますのでよろしくお願いを申しあげて一言ご挨拶とさせていただきます。今日はご苦労様でございます。

### ○高林雅彦管理主幹

ありがとうございました。次に協議に進ませてもらいたいと思います。座長はこの会議の設置者であります佐藤市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いをいたします。

## 3 協 議

### ○佐藤洋樹市長

それでは次第に従いまして進めさせていただきます。(1)本市の教育について、教育

長から教育の現状について報告をしていただきたいと思います。

#### ○草薙和男教育長

では最初に私の方から話題提起として資料の「平成27年度寒河江市教育委員会事業概要」の説明をもって本市の教育の現状とさせていただきたいと思います。

まず始めに指導推進室関係ですが、①美しく豊かでたくましい心、元気な体を育む学校では、特に柱になっているのは「さがえっこ育みアクションプラン」の推進でございます。今年はリーフレットをA3版にリニューアルし、学校はもとより幼稚園や保育所、その他いろいろなところに配布をし、運動の展開をお願いしたところでございます。各学校でも工夫ある取組をしてくださっていると承知しており、家庭においても連携して協力をいただいているということでございます。さらに11月3日、さがえっこ育みフォーラムということで、富山病院の明橋先生の御講演を企画いたしました。ここでは子育てについてということで講演いただき、約130名の参加があり、内容も大変いいお話であったと思ったところであります。

②の、一人一人を大切にし、学ぶ力を育む学校づくりでは、確かな学力を育むというのは学校の中核であり、しっかりとやっていく必要がありますが、概ね学校の様子は計画的な教育指導が行われ、学び合いの状況も非常に良いと思います。その中で委嘱研究ということで、11月13日陵東中学校の公開研究発表会が行われます。小中学校のすべての教員が集まり授業を参観し、分科会を行います。「開かれた人間関係を築き、学び合い、高め合う集団の育成」がテーマとなっております。学力の向上に向けた施策についてはNRTという全国標準学力調査というのがあるのですが、その結果は小学校はすべての学年、教科でほぼ全国を上回っておりましたが、中学校は数学、理科、英語の3科目で全国を下回っています。一方、全国学力状況調査では小学校6年生は国語、算数、理科の3教科とも全国を下回ってしまったという結果になっています。中学校3年生は数学は全国を下回りましたが国語と理科については全国を上回りました。NRTと全国学力状況調査の問題内容が違いますのでそのような結果になったということですが、しかしながら決して本市も満足できる結果ではなかったと認識しているので、この問題については各学校の結果を分析して取組を強化するように校長会を通してお願いしているところであります。昨日の校長会でも学力向上研修会ということでそれぞれの校長がレポートを持ち寄って研修したところであります。また今年度、学力調査の結果を受けまして「学力up授業づくり研修会」を急遽3回開くことにいたしました。本日、陵西中で開いているのですが、大変すばらしい授業を10月、11月の2回の研修で提供いただき、参加者からは大変学びの多い研修であったということであります。これを各校に広めていって学力向上につながる授業づくりが浸透していけばと思っているところであります。

生徒指導関連について申しあげたいと思います。いじめの問題であります全国的に心配される状況が報告されていますが、本市の今年度1学期までの状況では認知件数は小学校では26件、中学校では7件、合わせて33件という報告を受けております。しかしながら、ほとんどのものが改善の方向に向かっているという報告を受けているとこ

ろであります。各校ともいじめ防止基本方針がそれぞれの学校で策定されておりますので、それに基づいてきめ細やかな指導がなされていると思っております。それから不登校の現状ですが、これも1学期間の集計でございますが、30日以上登校しづり等で休んでいる児童生徒数は小学校2名、中学校19名の合わせて21名という状況で、昨年度同期とほぼ同じでございます。これまで同様、寒陵スクールなどの相談機能を活かして電話相談訪問相談含めて不登校対策に力を入れていくということでもあります。

③の信頼される学校づくりでは、これは各校とも学校評議員制度を採用し、学校評価などということで、地域や保護者の声を大事にしながら学校経営に活かしていることとなります。

教育総務・学事関係のことになりますが、一つは管理事業のことになりますがトイレの洋式化に取り組んでおります。小学校については今年度でほぼ終了になり、次年度以降は小学校の調理室、中学校の残りのトイレ洋式化について計画をしていきたいと考えております。空調設備につきましては特別教室等は終わっておりますが、今年度補正予算で議決いただきました中学校3年生の普通教室、中学校の特別支援教室の実施設計に現在入っているところであります。国の補助が決定すれば来年度工事を進めていきたいと、国の補助決定を待っているところであります。

学校給食関係では中学校給食で「さがえ食育の日推進事業」ということで国の10割の補助事業がありますので、寒河江の地場農産物をふんだんに使った給食を年6回提供するという計画で進めております。

次に情報教育推進事業ですが、特に電子黒板の配置ということで取り組んでおります。小中学校の各階に1台は設置したいということで、平成27年度までで小学校は完了という予定でございます。中学校は陵東、陵南中分が残っておりますので平成28年度以降に整備していく計画になっております。なお、陵東、陵南中は学級数が多いので各階2台の整備を計画しております。

就学援助事業につきましては、今年度は10月末現在、対象児童生徒数はご覧のようになっておりますが、微増という状況ではないかと思っております。

生涯学習関係で、まず寒河江さくらんぼ大学推進事業関係ですが、今年度で2年目になり、7月から開講しまして、今月11月まで7学部にわたってそれぞれ4回ずつの講座がございます。受講生232名で昨年より若干受講者が減ったところでございます。今年度は運営委員会など受講者の中から運営委員を募って、主体的な運営にしていけるように工夫をしているところでございます。

次に芸術文化事業ということで資料記載のとおり様々な文化事業を行っており、11月16日には野村萬斎、若村真由美公演がありますが、こちらはすでにチケットが完売しており盛況のようでございます。

3番目の文化センター整備事業ですが、中央公民館ホールがございますが、こちらのステージを改修工事いたしました。

4番目の公民館整備事業ですが、各地区分館の耐震、バリアフリー等の改修補助を事業として行っております。耐震につきましては今年度までで5分館の耐震工事が終わるということでもあります。今年度は栄町分館の工事が終わる見込みであります。なお、ひ

がし分館、鹿島分館については今年度は耐震精密診断を行い、来年度耐震工事を行う運びとなります。水洗化、バリアフリー化については資料に記載されている分館となります。

図書館の読書普及事業ですが、図書館は市民の生涯学習の拠点施設となるわけで、サービスの向上に努力しているところですが、俳句大会から山形の文学を探るシリーズ等、様々な普及事業を行い、昨年度以上の参加者があったと報告を受けております。

史跡慈恩寺旧境内総合調査事業ですが、これにつきましては現在保存活用計画の基本計画を2か年間で策定をするという計画になっております。現地の確認、山業地区の詳細な地形図づくり等様々な調査研究を行い、来年度には保存活用計画を策定していただき、その後それに基づいた整備計画を策定していくことになると思います。

次にスポーツ関係であります。一つはスポーツ推進計画ですが、先ほど市長からも教育振興計画、市の振興計画ついてありましたがスポーツ推進計画についても新しい計画をつくっているところでもあります。市民がいつでもどこでもスポーツに親しんでいけるような内容を基本とした計画を策定中であります。二つ目は体育施設の整備についてですが特に大きなものとしてはテニスコートの人工芝改修を12月15日ぐらいまでの工期で現在行っております。また市民プール25メートル屋内プールの屋根の取り換え更新を行いました。三つ目は市体育協会についてですが、今現在任意団体になる訳ですが、この体育協会組織の強化ということで法人化に向けた調査研究検討を進めているところでございます。さくらんぼマラソンについては、大きなイベントですが、6月21日、39回目のさくらんぼマラソンが行われて、これまで以上の1,499名、約1,500名の参加者がございました。大変盛況であり参加者アンケートなどからも来年も参加したいという方がアンケートを寄せてくださった方の92%ということで、来年は40回の記念大会となりますので、大いに盛り上げていい大会にしていきたいと考えているところでございます。

掻い摘んで本年度の事業概要を中心に今の教育の様子について申しあげたところであります。よろしく申し上げます。

○佐藤洋樹市長

それではただ今の教育長の報告について、皆さんの方からご質問等あればお願いしたいと思っております。

○鬼海瑞光委員

いじめについてご説明いただきましたが、資料を見ると総数で昨年度とほぼ同程度ということですが、お陰様で寒河江市の場合は重大な事案が発生していないわけですが、ぜひ学校の指導の中で命を大事にする、命を絶ってしまうのは良くないこととぜひ指導していただきたいと思っております。学校で逃げ場がなくなればどうしようもないというのではなく、どこかしら逃げ道があるんだよといったことをぜひ教えていただきたいなと思っております。全国でいじめに関する報道がありますが、担任の先生などの対応がどうしてもよくない場合など、重大事案に発展しているような傾向があるようです。

で担任の先生方にもぜひ指導をしていただきたいと思ったところであります。

○草薙和男教育長

とても大事なことだと思います。これまでの学校では特に山形県は命を大切にする教育に力を入れてきましたが、道徳の時間はもちろんのこと、あらゆる教科、教育活動で自他の命の大切さについては重要視して指導を強化してきたと思いますし、今後もしっかりと命の大切さを子ども達に教えていきたいものだと思います。また、担任の、という話もございましたが今の先生方の子ども達の変化に気づく感性が、かつてに比べ少し鈍ってきているのではないかという指摘もございます。私も校長会などではアンテナを磨いて感度よく高く掲げて子ども達の様子に敏感になっていただきたいと願っているところですが、そういった子ども達の変容変化に気づく心、感性というものを磨いていきたいものだと、そんな話も今後も校長を通して学校にしていきたいなと思っております。

○松田彌生子委員

私もこの結果を見させていただいて蹴られたり叩かれたりという件数を見て心を痛くしたわけです。今話があったように寒河江市のいじめ防止基本方針を読ませていただくと学校だけでなく関係機関とともに取り組んでいく記述がなされていますが、やはり一番大事なのは、教育長さんが言われたように何より担任があれって思うことと、校長もあれって思うことなのではないかと思います。なるべく早く手を打つことがいじめが広がる防止になるので何回言っても何回指導してもまたかと言われても、命を守るためにはアンテナを磨いて担任が見つけて校長がすぐ行動できるような学校の風土というか、教育環境を日々つくっていかなくてはいけないと思いますし、それから隠したりしてしまうと後からになってとても大変なことになるので、教育委員会の指導を基に学校の力、PTAの力を総動員して早いうちに大きくならないうちに指導していくことが大切だなとこの結果を見て感じたところです。

○草薙和男教育長

私も同感なのですが、いろんな事例を見ていきますと、子ども達の変化を職員間で、あるいは家庭との連携の中で共有化されていなかったことも大きな事故につながってしまったのではないかと思います。ただやはり風通しがいいというか、学年とか教科毎とか部活の先生とかいろいろな方が、その子を教科で指導する先生も部活で指導する先生もその他の先生も、気づいたらお互いにすぐ連絡し合える情報共有し合える、そういう雰囲気のある学校、あるいは家庭に対しても風通しのいいコミュニケーションの取れている学校づくりが非常に大事だと強く思ったところです。

○佐藤洋樹市長

毎年いじめの把握はしていて件数が減らないのはどうしてなのでしょう。

○草薙和男教育長

最近の件数の多さは先生方あるいは家庭でもそうかもしれませんが、ちょっとした子どもの変化に今まで以上に気づくようになったこともあるのではないかと思います。ですから件数は増えているけれども、必ずしも数が多いから深刻な状態だという認識は今を持っていないような気がいたします。

○佐藤洋樹市長

いじめの内容として軽いものも多いが、軽くないものの中にはあるのでしょうか。

○草薙和男教育長

全体の報告の中ではそういったものもございます。

○佐藤洋樹市長

不登校の数もほとんど変わらないのですね。毎年同じ人が不登校のままなので数が変わらないということなのではないでしょうか。

○草薙和男教育長

学年が進んでも不登校の状態ということももちろんあります。不登校についてはなかなか件数が減らない状況が続いております。

○佐藤洋樹市長

不登校といじめは関連するところがあるのでしょうか。やはり教室の環境等を改善していかないと、不登校も改善していかないとということになるのでしょうか。

○松田彌生子委員

不登校の話が出ましたが、寒陵スクールの実績というものが本当にすごいことだなと思っています。その子どもに合ったきめ細やかな対応を指導員の方々が努力なさっているとありますが、国や県、市によるスクールカウンセラーや教育相談員の方が各学校に数名ずつ配置されているのですが、スクールカウンセラーや教育相談員の方々の横のつながり等はあるのでしょうか。

○草薙和男教育長

全体的に集まって話をする等という会議の場は無いかもしれませんが、個別の事案についていろいろ連絡を取り合うというものはあるかと思います。

○鬼海瑞光委員

食育についてですが、学校給食ではさがえ食育の日が年6回あるとのことですが、先日の高松小学校の学校訪問した際に栄養士の方から食材とか給食のことについて説明をしていただきましたが、食事は体を作る上でも大変重要なことなので、寒河江市の場合、



地産地消も進めているということなので、これからも地域農業の発展と連携しながら食育事業を進めていっていただきたいし、寒河江市の給食を提供する事業者とも連携しながら子ども達のためにより良い給食の提供を、これからもお願いしたいと思っております。

○草苺和男教育長

地場農産物の使用率は寒河江市の場合40%だそうです。県の目標値もあるようですが寒河江市は使用率が高いということでもあります。今後も素晴らしい新鮮な地場農産物を使用した給食を提供していきたいと思っております。

○鬼海瑞光委員

肉などは寒河江産というのは使用されたりしているのでしょうか。

○草苺和男教育長

納入業者は寒河江の業者ですが、寒河江産の肉かどうかまでは分かりません。

○佐藤洋樹市長

さがえ食育の日というのは中学校で行っている事業ではないですか。小学校でもやっているのですか。

○草苺和男教育長

この事業は中学校で行っております。

○山田健二学校教育課長

その他に小学校も含めて、毎月19日前後の1週間、地産地消を積極的に進めるというようなことを小中学校連携で行っております。今お話のあった中学校で行われているさがえ食育の日推進事業では、これまでに芋煮でありますとか、地場産の野菜をたくさん入れたカレー等のメニューについて取り組みました。

○佐藤洋樹市長

その他ございませんか。またお気づきになったところで結構ですのでお願いいたします。続きまして(2)第2次寒河江市教育振興計画(案)について策定中ということですが途中経過を含めご報告をお願いします。

○山田健二学校教育課長

市長からもございましたように現在第2次寒河江市教育振興計画を策定中であり、検討委員の方を指名させていただいて検討しているところであります。お手元に案ということで10月27日に行われた検討委員会で検討した内容をお示ししておりますのでこちらをご覧くださいと思います。資料を見ていただきますと総論から始まって説明

していますが、4ページをお開きいただきたいと思います。新しい教育振興計画の基本目標と基本方針をお示ししております。この基本目標は本市を取り巻く状況等も踏まえたうえで子ども達に「寒河江は私の大切なふるさとだ」と言えるような心を育むということを進めていきたいと思っています。またやがて子ども達が成長しそれぞれの人生を歩むと考えたときに寒河江に住みながら寒河江から広い世界につながる、あるいは寒河江から羽ばたいていく生き方をする、再び寒河江に戻って暮らすことを選ぶ、更には新しく寒河江に移り住んで寒河江で生きる道を選ぶなど様々な方がいらっしゃいます。そういった人々の心の基盤に「ふるさとを愛する心」を育むということは非常に大事なことだろうと思います。これから少子高齢化に伴う人口減少や様々な社会変化もある世界の中で、このような心の基盤にふるさとを持ち、そして未来を切り拓いていくという力強くたくましい人材を育成していくことが教育の役割として大事であると捉えております。またそれを実現するためには、共に学び合ったり共に育み合ったりできる社会であり、そういう土台があってこそであると考えられることから、基本目標を次のように定めました。「ふるさとを愛し、寒河江から夢のある未来を切り拓く人づくり」。そして副題として「共に学ぶ共に育む」といたしました。この基本目標に則って、基本方針として次の5つを定めたいと考えております。基本方針1、豊かな心と健やかな体を育む、基本方針2、学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育む、基本方針3、生涯にわたって、生き生きと学び続ける取組を推進する、基本方針4、ふるさとに誇りを持ち、郷土の歴史と文化を大切にすることを養う、基本方針5、教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組を推進する。このように現在考えております。また、5ページに折り込みになっておりますのが施策の体系でございます。一番上に基本目標、そして5つの基本方針に沿って主要な施策を挙げ、この一つ一つの主要施策に対して具体的な施策を述べ、更には具体的な取組が展開していくこととなります。このような体系の中で第2次寒河江市教育振興計画を推進して参りたいと考えております。なお6ページ以降は第5章主要施策と主な取組、ということでそれぞれの基本方針に沿って、具体的な施策、現状と課題、施策展開の方針、主な取組、とこのような流れで記載しております。現在、第3回の検討委員会を経ているところであります。市長からもありましたように市の振興計画も策定中でございますので、市の振興計画との兼ね合いも勘案したり、様々な新しいご意見等もこれからパブリックコメント等でいただきたいと考えております。そのようなものも踏まえて、来年1月若しくは2月あたりに最終となる第4回目の検討委員会を開き、そこで答申をいただきその後教育委員会で議決をしていただき、来年4月1日から新たな第2次教育振興計画として動いていく、とこのように考えております。

○佐藤洋樹市長

教育委員のみなさんはこの計画案について委員会等でも議論されているかと思いますが、あらためてご意見等あればお願いします。

○菊地道子委員

計画案7ページの基本的な生活習慣の確立のところの主な取組の2つ目のところでは

が、ノーテレビデーノーゲームデーのところを削除して、メディアとの適切な関係を築けるような取組を推進し家庭における家族のつながりや会話時間を増やします、とありますがこのところは家庭のことをダイレクトに持ってきているような文章になってしまっているなと思いました。生活習慣の確立というのは健康に育つことのためだとは思いますが、このような教育振興計画においてこの文章はちょっと違うような気がしたのでその部分を少し考えていただければと感じたところです。その下に、上手に付き合っていける力を培う情報モラル教育や環境づくりを、とありますがこれもモラルはもちろんですが更に自分でネットやメールの使い方を自己規制していくこと等の内容も入れていってはどうかと思ったところです。

○山田健二学校教育課長

ご指摘ありがとうございます。文章中、赤で記載されているところは前回の検討委員会の時に検討委員の方からご指摘があって修正を加えた部分であります。このノーテレビデーノーゲームデーのところを削除になっているところについて、これから10年先を見た時にノーということだけでいいのかというご指摘がございました。つまりそういうメディアが日常的にある環境で子ども達は生きることになると、ノーと言って拒否するだけではいけないのではないかというご指摘がありました。拒否するだけでなく、上手な付き合い方を進めていくということ盛り込んだほうがいい、また家庭における会話時間を増やすということも大事にさせていただきたいというご指摘があって、このような加筆内容となっております。また、ノーテレビのところを削除したのですが、インターネットやメールなどが日常的にある世界においてはそれに対しての情報モラル教育あるいは環境づくりを進めるということが大事ということで、このような加筆をさせていただいたところでございます。

○佐藤洋樹市長

先ほどの菊地委員の話については、家庭における家族のつながりや会話時間を増やしますという内容をこの計画の中で言えるものなのかということですね。

○草苺和男教育長

私も先ほどの菊地委員の話を聞いて家庭のことまで入りすぎた表現になっているという指摘だったかなと思いました。ですから例えば、会話時間等を増やすよう啓発を促しますとか奨励しますとかそういうような表現にすべきということですね。このままだと教育振興計画が家庭の部分に入りすぎているということですね。

○佐藤洋樹市長

表現については今後検討をお願いしたいと思います。

この教育振興計画の中には数値目標などはないのですか。市の振興計画の方は少し数値目標があるようですが、教育的内容の数値などはあるのですか。

○山田健二学校教育課長

市の振興計画は教育だけでなくすべての計画が入っておりますが、教育部分についても目標数値というものを入れるように予定しております。ただ教育という特性から単に数値目標でいいかどうかということもあり、いろいろ検討委員会でも検討いただいたり工夫したりしております。例えば学力について全国との比較で上回ること等であります。

○佐藤洋樹市長

計画案は内容的にだいた書き込んであるようですが、今後は細かい字句の訂正ぐらいとなるのですか。

○山田健二学校教育課長

第3回の検討委員会では計画案を訂正した部分が大変多くございました。今後については今のところどうなるのか検討中ですが、市の振興計画との兼ね合い等も踏まえることもありますので必ずしも字句の訂正だけということにはならないのではないかと思えます。

○菊地道子委員

第1次寒河江市教育振興計画の検証といったものは無いのでしょうか。

○山田健二学校教育課長

第1次教育振興計画は今年度が最終年度でございますので、その成果や課題もあり、これらを次の計画へ引き継いでいくべきものもあるということで、計画案の2ページに現状と課題を記載してございますが、その他新たに生じる課題等、これらを踏まえて第2次教育振興計画を策定していくという形にしております。

○佐藤洋樹市長

検討委員会の中で第1次教育振興計画については資料などでも出して検証などもしていただいたということですか。

○山田健二学校教育課

第1次教育振興計画の時の検討委員もいらっしゃいますが、現在の第1次教育振興計画はどのような状況であるかの説明をさせていただいたうえで、この計画案を示しているということでございます。

○佐藤洋樹市長

状況の変化というのはこの計画案に書いてあるとおり、人口が減少、少子高齢化等は大変大きい状況の変化だと思いますが、そういう変化に対応したような新しいというか、前の計画とは違ってそういう状況を踏まえた内容というのがいかに今回の計画の中に出てきているのか、それがある程度、今回の教育振興計画のカラーの一つになってくるの

ではないかなと思います。検討委員会では今回検討している計画の特徴といえるものはどういう内容だと説明しているのですか。

○山田健二学校教育課

計画案2ページの方でこれからの社会において少子高齢化が進み、人口減少していくという課題については人口ビジョンをお示しして状況を説明しております。少子高齢化が進めばその人口構造の変容に応じた様々な必要性が生じる、またそれだけではなく高度情報化やグローバル化も始まるといった課題がこれから10年間の中で起こるということをお話しさせていただきました。そうしたところ検討委員の方から、確かにそういった課題があることはわかるが、それを踏まえて前向きに取り組むといったそういう教育をつくっていかなくてはならないだろうというご意見をいただきました。3ページ目の項目3で現状と課題を踏まえた教育の創造とし、課題があるのは当然であるけれども、それをマイナスにとらえるだけではなく、そのような中でも良さを引き出すということ、例えば高齢者の人口比率は高まりますが、それによって高齢者という先輩方の生きた知恵を子ども達へ、親世代については子育てについて学べる機会がより豊かになる等そのようなこともある。人と人とのつながりをもっと大切に作る社会をつくっていけば、その上に立った教育が起こりうる。そのような説明をさせていただいています。逆に言いますとつながりのある社会をつくらないと人口減少、さらに少子化においてはつながりのないところでは教育が成り立たない。つながりという土台をもって、ふるさとを愛し未来を切り拓く人をつくりたい、とこのように検討委員会において計画の検討を進めているところでございます。

○佐藤洋樹市長

内容については本質的に第1次教育振興計画と変わらないということですか。

地域社会が成り立たないとネットワークがつかれないエリアも出てきたりするのはということも、この10年間の中で想定されるのではないかと思います。そういう意味で、例えばもう少し大きいエリアで物事を進めていくとかそういう内容も必要なのかと思います。コミュニティというのが高齢化になってくると地域の人が公民館に集まってくると自体が厳しくなるし、市役所あたりに来ることも厳しくなる可能性もあり、地区公民館あたりがもう少し市役所の分館的な役割を果たして、いろいろな証明がとれるとか様々な相談を受けられるというような機能をもっていけないと地域の人は大変なのではないかと思います。寒河江の場合、4つの地区公民館があって、柴橋と南部は小学校単位で一つの公民館になっています。この間全国市町村サミットというコミュニティセンター化についての分科会があって、県内では高島町が力を入れているようです。そこでは小学校単位で公民館があるようですが、寒河江はそうっていない。小学校のエリアと公民館がうまく連携して拠点づくりがしやすく、それでコミュニティセンター化しやすいというのはあると思います。山形市などいろいろなところでコミュニティセンターの動きが出ているようです。高島町などは地域の人が組織づくりをしているということでした。そういったことをしていけないと地域がもたなくなってくる

ようだと思ったところです。ある柴橋地区の方からは地域で会議などをするときには、地区公民館を使わせてもらえるようにとの話がありました。どうしても団体の予約の動きが早く、地域で使いたくても使えないとのことでした。地区公民館をコミュニティセンター化してもらおうと大変ありがたいという話でした。近くの自治体に例があるので今後検討していったら、10年間の計画の中ではそういうのも必要ではないかと思ったところです。少子高齢化や人口減少など具体的に計画の中ではどういうことを想定してその問題に光をあてていくというか、どうしてそうなるのか等と考える必要もあるのではないかと思うところです。

○草薙和男教育長

市長が今言われたコミュニティセンター化については10年先を考えますと大変重要なことですので、この計画の中には取組の中に入れてあります。

○鬼海瑞光委員

市長さんにお伺いしたいのですがこれから高齢者が増えてくるのですが、老人クラブの数は減ってきている。年配の人は増えてきているのですが、コミュニティに参加する機会がなくなってしまってなかなか交流ができなくなっている。このような中、老人クラブに代わるような何か受け皿のようなものはお考えでしょうか。

○佐藤洋樹市長

先ほどの続きの話にもなりますが、高齢者の数は増えていきますが老人クラブは減ってくる、婦人会はなくなる等、地域を支える団体等は崩壊してきている。これからはますますそういう問題が危惧される。以前の社会教育的な分野になるのかと思いますがそういった地域のボランティアの団体育成というのは少し検討しなくてはいけないと思ったところです。現実的にはそういった団体に入ってもメリットがないから入らないということが多いようですが、入ってもらえるような組織の活動を考えることが必要ですし、行政でもいろいろ支援策を考えていく必要があると思います。入って損はしない、入ってよかったというような組織づくりをしていかななくてはいけないですし、いろいろ考えていかななくてはならないと思っていますところ。若い女性などのあまりしばらくられない組織には人も集まったりする等、そういった組織が新たに生まれつつあったりするなど他の事例も研究しながら考えていかなければならないのではないのでしょうか。

その他、何かございませんか。

ないようであれば第2次寒河江市教育振興計画案については以上をもって終わりたいと思います。続きまして(3)これからの教育施策について、をお願いします。

○山田健二学校教育課長

これからの教育施策ということでございますが、先ほどご紹介申しあげましたように現在第2次教育振興計画は計画案の検討段階ということで、この基本目標との関連から

このような事案を展開できればというように現在考えているというものをご紹介させていただき、皆様の話し合いの参考にさせていただければと思っております。資料を準備いたしました。基本目標の構造を示したものがございます。先ほど申しましたように子どもから大人まで人々の心の中にふるさとを愛する心を核として持つと、そういう人がこれからの未来を切り拓く人になって欲しいと願っておりますし、そのためにはこれからの地域コミュニティが今までにないような状況になるとすれば、そこでその土台となるものが共に学び共に育むような社会構造であるべきだろうという中で、この基本目標が構成されているということがございます。基本目標を構成するものを3つとしますと、それに対してどのような具体的施策を考えていけばいいものかなということ以案をお示ししております。以上、今現在構想しているものをご紹介してお話合いの参考とさせていただければと思います。

まず1点目はふるさとを愛する核になる心をつくるということでございますが、そのためには子ども達にふるさとを愛する学習の支援事業を起こしてはどうかと考えております。その一つが例えば寒河江市のすべての子ども達に核になるふるさとである慈恩寺という本市の宝がございます。その宝である慈恩寺を体験的に学んだり資料で調べたり、そうして学べるような学習を寒河江市の子ども達みんなに核となるものとして持たせてはどうかと考えております。慈恩寺のよさをさらに知ることが必要であることもあり、先生方に対しての慈恩寺について学ぶ研修の機会も設けてはどうかと考えております。そのためには生涯学習課とも連携をしましてガイドの方との連携等も含めて、ふるさと、それも核となる慈恩寺について学んではどうかと思っております。またその土地その土地には様々なふるさとがございます。それぞれの学校にもそれぞれのふるさとがあり、その学校で育まれている地域とかかわって学ぶ特色ある学習をさらに継承発展させていけばいいのではないかと考えております。また、学校だけで行うのではなく生涯学習課との関連で大人も学習し、心の中にふるさとを愛する核を持つ必要がありますので、例えば寒河江さくらんぼ大学の中でふるさとにかかわるような講座を設ける、今あるような講演会であるとか文化財の解説書を発行するとかそういうこともあるかと思っております。このような講座を受講した方が子ども達にかかわってくださるとか、いろんな意味で共に学ぶ、につながっていくことができたらどうかなどと現在構想している段階でございます。また市の校長会からもそのような観点での要望が来ておりますし、三泉小学校の6年生からもぜひそのような学習してみたいという声が市長への手紙として届いておりますので、このようなことを進めてはどうかという構想を持っております。

2点目についてですが、人口が減る社会であっても共に学んで共に育むようなつながりのある社会をつくっていかねばならないと思います。そのためには学習の中では共に学んで学力の向上を図るというような学力の面でもつながりを持つことが大事であろうと思います。委嘱研究を中学校区ごとに行い、小中学校の連携を今まで以上に緊密に図っていくとか、様々な面でのつながりからの学力向上あるいはさがえっこ育み推進事業について取り組んでおります。非常に重要な事業であると思っておりますのでこの連携をさらに継承発展するような取組を進めてまいりたいと思います。生涯スポーツももちろん土台になっていくと捉えております。更には様々な障害を持つお子さん、いろんな困

難を抱えているお子さんがいても、共に学べるような教育的支援ということで学習補助員等の増員であるとか、また経済格差が教育格差になってはいけないと思いますのでそのための経済的支援制度などはどうかという構想も考えております。

3点目としては、最終ゴールは夢のある未来を切り拓く人づくりでありますので、その人づくりのためには、これからの10年の中では英語力の育成が文科省からも示されておりますので、その未来に対応するような人づくりという意味でも英語力育成事業があるのではないかと思います。また、高度情報化社会にも入ってきますので情報教育の推進を図るような事業展開を図る必要もあるだろうと思います。また、これからの教育環境について少子化に向かうとすればそれに対応した学校のあり方も考えていく必要があります。また学校の教育環境をさらに整えるということではエアコン整備を推進していく必要があるのではないかと思います。地域社会ということで考えれば、地区公民館のコミセン併設等のあり方、あるいは様々な社会体育施設の整備等を含めた教育環境のあり方も考えていく必要もあるのではないかと思います。ただ現在、市の振興計画が策定途中でありますし、予算等はこれからということでございますので、それらを踏まえて像を描いていく必要があると考えております。

以上、お話し合いの参考として紹介させていただきました。

○佐藤洋樹市長

今お聞きした内容が計画の中に入っているということですか。

○山田健二学校教育課長

この計画から具体的な事業を描き出すという作業をこれからやっていくわけですが、これらの事業は毎年具体的な事業をやっていくための一つの例ということになるかと思えます。たくさんの事業がございますが、その中でも特徴的なものを描き出してみるところでございます。

○佐藤洋樹市長

学校の統廃合というのは検討委員会の中でどういった議論になっているのですか。

○草苺和男教育長

検討委員会の中では特にその話題はありませんけれど、10年後ということであれば何かしら考えていかなければいけないということで、それに関する文言は計画案の中に記載しております。

○佐藤洋樹市長

英語力育成事業というのは、特別に力を入れて頑張っていくということなのですか。

○山田健二学校教育課長

今現在も小学校5、6年生に外国語活動、中学校以上は英語の教科があり勉強してお



りますが、文科省からはこれからは英語力をさらに強化していくという方針が示されておりまして、現在予定ではあります平成32年から小学校3、4年生に外国語活動、5、6年生は教科化を図る、中学校においては実践的な力まで求めるような英語力の強化を図っていくという方針が示されております。そうしますとこれらに対応した事業を学校の中でもやらなければならない流れがこの10年の中で起こることになりますので、そのための対応が必要であろうかと考えているところでございます。

○佐藤洋樹市長

そういったことは寒河江だけではなくどこでも取り組むということですか。寒河江らしい英語教育をやるということですか。

○山田健二学校教育課長

英語について取り組むのは国全体の動きでございますので、国全体でそのような流れになるかと思えます。今はまだ構想ということですが、寒河江の子ども達のためにここに記載されているような事業もできるだけやってまいりたいと考えております。また、学校だけではやりきれないとなった場合には、共に学ぶということが土台でありますので、地域の中に英語が堪能な方がいれば大いに学校教育の中に入れていただくような流れが必要かなと思えます。生涯学習講座などのように共に学ぶような土台をつくらないとこれからの教育はうまく展開できないのではないかと考えております。

○佐藤洋樹市長

事業の中に新たに英語の授業をプラスしていくと考えているのですか。

○山田健二学校教育課長

まだ構想としてですが必要かなと考えております。

○佐藤洋樹市長

英語教育をさらに一生懸命やるなら、中学卒業した時はほとんどの子どもが英会話でできるようなレベルになるといいのですが。何年たっても話せないこれまでの教育では困るわけです。中学校3年生まででちょっと話せるようにがんばるとなれば、寒河江の英語教育はすごいとなって、寒河江市の教育の特徴といえるようになるのではないのでしょうか。

○草苺和男教育長

今日、たまたま陵西中の英語の授業を見る機会がありましたが、若い男の先生で中3のクラスでしたがほとんど英語で授業をしておりました。子ども達も英語で会話しながら勉強しておりましたので、寒河江の英語の授業も進んできているなと思いました。

○佐藤洋樹市長

A L Tを増やすことは簡単にはできないのでしょうか。自前で費用負担すればA L Tを増やすことはできるのでしょうか。

○山田健二学校教育課長

陵西中の英語の授業は私も見てきましたが、そのような学力UP授業づくり研修会というものを小学校の先生も呼んで見せております。今までそういう授業だったのかというところではなかったところもありますし、市長からもご指摘ございましたようになぜ話せないのかということもあり、そこにくさびを打つための国の動きでありますし、寒河江市としてもA L Tをもし増やすことができるとすれば、小中連携で英語教育の充実を図れることはありがたいことと思います。

○佐藤洋樹市長

A L Tの効果というのはあるのでしょうか。

○草苺和男教育長

小学校もそうですが、中学校については特に効果はあると思います。

○松田彌生子委員

A L Tの方は楽しく学べる工夫をしてくれているので、子ども達はとても楽しみにしているようです。

○佐藤洋樹市長

その他皆さんからございませんか。

○松田彌生子委員

慈恩寺体験学習は大変いい活動だとみておりましたが、大体何年生以上を対象とお考えでしょうか。

○山田健二学校教育課長

今現在も慈恩寺体験学習はほとんどの学校で展開されています。各小学校、中学校で実際慈恩寺に行くということもありますし、あるいは修学旅行先で慈恩寺についてパンフレットを作り紹介し、さらにその反響を受けて交流を深めることなどの例もあるようです。資料にある子どもさんのように、4年生では勉強したけれどもそのあとはなかなか、というような声がありますし、いろんな学年でもっと深く取り組めるのではないかと思います。学校の裁量によっていろいろなやり方はあると思いますが、そのような展開ができるように様々な面で支援していくのはどうかという構想を持っているということでございます。

○松田彌生子委員

慈恩寺だけがメインとなってしまうと、各学校のふるさと学習がおろそかになってしまいがちになるので、双方向で両方大事にしながら教育課程の中にきちんと位置付けておかないとだめだなと思ったところです。来年あたりからきちんと位置付けられてそれぞれの学年で取り組むような形になっていけばいいと思います。

○佐藤洋樹市長

その他ございませんか。ないようであれば（４）その他、の方になります。

○山田健二学校教育課長

こちらからはございません。

○佐藤洋樹市長

委員の皆さんからもございませんか。

それでは予定された協議については以上をもって終了させていただきます。

#### ４ その他

○高林雅彦管理主幹

協議の方、大変ありがとうございました。４．その他になりますが、今後の予定について山田課長から説明いたします。

○山田健二学校教育課長

今後の総合教育会議についてであります。今年度は３回目となる総合教育会議を２月の予定で考えております。３回目の内容については平成２８年度からの大綱を策定する必要があるかということ、また次年度の予算等を踏まえたうえでの教育行政等について、またその他総合教育会議は市長と教育委員会が協議調整する場ありますので様々な来年に向けた内容について話し合いをしていただければと思っております。繰り返しますが、２月に３回目の総合教育会議を開いてはどうかと考えております。

#### ５ 閉 会

○高林雅彦管理主幹

以上を持ちまして、第２回寒河江市総合教育会議を閉会したいと思います。お疲れ様でございました。

閉会 １６：３５